

一般質問通告書（令和元年6月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
1	河野 巧	1. 地域振興協議会設立から10年経過したことによる成果と課題について	<p>今後予想される高齢化の波に備え、今ある地域の力を高め、市民の皆様が住み慣れた地域で元気に暮らしていく為の対策のひとつとして、旧小学校区ごとに「地域振興協議会」という組織を設置しようと、平成21年4月からコミュニティ推進室を組織、地域コミュニティ再生に向けた取組みを現在も進めており、現在は野津町中心部を除く17地区において設置が完了したと聞いています。 これまでの流れと今後について4点質問致します。</p> <p>(1) これまでの地域振興協議会の成果と問題点について (2) 協議会活動における助成金の仕組みについて (3) 事務局体制の充実と整備について (4) 今後の協議会運営の定着に向けた市の取り組みについて</p>		
		2. 旧臼杵商業高校周辺の道路整備について	<p>昨年6月定例会の冒頭で示された市長方針により旧臼杵商業高校跡地に公共インフラ担当課を移転すること、下南保育所を「認定こども園」として同敷地内に建設すること、グラウンドやその他の施設については災害時対応施設として活用することが着々と進んでいます。また、懸案事項であった下南地域のコミュニティセンターの建設も検討されているとお聞きしています。このような中、同周辺部の賑わいは今以上にすることが想定され、既存の道路網では不十分ではと考えます。そこで2点質問致します。</p> <p>(1) 今後想定されている旧臼杵商業高校跡地利用について (2) 旧臼杵商業高校周辺における道路整備について</p>		
		3. 風力発電について	<p>昨年の6月定例会で質問した風力発電事業のその後の経過について2点質問致します。</p> <p>(1) 環境大臣及び経済産業大臣の勸告を受けて事業者から自治体及び地区民への対応について (2) 周辺環境への影響に対する対策について</p>		
2	匹田 郁	1. 町づくりについて	<p>3月23、24日に開催された第6回九州町並みゼミ臼杵大会についてお伺い致します。</p> <p>(1) 開催したことによって得た事は何か。 (2) これからの臼杵市の取り組みにどの様に生かしていきますか。 (3) 伝統的建造物群保存地区（伝建地区）あるいは文化的景観の保護地区の認定を受ける考えは有りませんか。</p>		
		2. 民生委員の現状について	<p>少子高齢化の今日、さまざまな地域問題に取り組んでおられる民生委員との関わり方についてお伺い致します。</p> <p>(1) 民生委員の現状について行政としてどの様に把握されていますか。 (2) 地区を跨ぐ活動をされていることについてどの様な問題点があると考えますか。 (3) 少子高齢化の中で、増々必要とされる役職ですが、年齢のことも含め引き受ける方がなかなかいないと聞いております。行政としてこの課題に対してどの様に関わっていくのかお尋ね致します。</p>		

一般質問通告書（令和元年6月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
3	戸 匹 映 二	1. 高齢者対象のサービス・助成事業について 2. 地域独自の津波避難路の整備について 3. 障がいを持つ人などへの防災に関する支援について	(1) 家族介護用品の支給について ① 居宅介護でのおむつなどの介護用品の支給は要介護4・5で市民税非課税世帯を対象としているが、身体の状態によっては要介護2・3でも常時おむつなどが必要な場合がある。このような「常時おむつなどが必要」であることを要件に要介護度に関わらず支給対象に含めていただきたいが如何か。 ② 常時でなくてもおむつ等が必要な高齢者を在宅で介護する市民税非課税世帯に対しては、要介護2・3であっても一定の負担軽減のため、段階的な購入助成を行っていただきたいが如何か。 (1) 地域指定の津波避難場所への避難路の整備への支援について ① 地域では津波避難路の整備として、階段等の手すりの設置や舗装を行おうとしても、市からの原材料の支給だけでは整備が困難な地域がある。地域で土地の確保ができる場合は、原材料とともに工事費も含めて市からの支援をしていただきたいが如何か。 (1) 障がいを持つ人などへの災害時における支援について ① 災害時に障がいを持つ人などへの迅速な支援につなげるため、ヘルプカードの災害時の活用啓発と、希望者にはヘルプマークのストラップを無償で配布していただきたいが如何か。 ② 障がいを持つ人などへ、当事者の災害への備えや援助者の対応をまとめた「障がい者のための防災ハンドブック」を作成し、意識啓発や防災教育、避難訓練などに活用していただきたいが如何か。		
4	若 林 純 一	1. 「旧野津高校跡地」について 2. 「（仮称）大分野津太陽光発電事業」について 3. 「駐車場」について	3月定例会で「旧野津高校跡地」については「農林業関係者の交流・連携や研修などの場として活用したい」と表明されました。 一方で、野津地域に現在3校ある小学校は近い将来統合される方向であると認識しており「旧野津高校跡地」は統合後の小学校用地として、有力な候補地と考えられます。 (1) 旧野津高校跡地の活用方針を決めるにあたっては、小学校の統合の方向性についても結論づけるべきと思いますが、いかがお考えでしょうか？ 野津町中心部の約70haの山林を開発し、太陽光パネルを設置する事業が進められており、環境面や防災面での影響が懸念されるところです。 平成30年12月14日付けで臼杵市長から大分県知事へ提出した「意見書」には「地元住民の不安を払しょくすることが事業実施の前提条件と考えており、今後事業者による地元住民に対する丁寧な説明により、全ての地元地区の同意を得たうえで、自治会ごとに協定書を交わすこと」と記載されています。 (1) 現在の進捗状況と今後の進め方並びに見通しについて教えてください。 (2) 全ての地元地区の同意を得て協定書を交わす過程（プロセス）については、いつどのような進め方で行われるのでしょうか？ 「サーラ・デ・うすき」のレストラン撤退などの状況から推察するに、中心市街地への集客対策としての「駐車場」は重要な課題であると思われます。ついては、以下の点についてお伺いします。 (1) 「サーラ・デ・うすき」で発行される「まるしょく屋駐車場」の1時間無料駐車券の運用状況について (2) 「サーラ・デ・うすき」裏にある「駐車場」の運用状況について (3) 「観光交流プラザ」駐車場の運用状況について		

一般質問通告書（令和元年6月定例市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
5	広田 精治	1. 市道等の白線について 2. (仮称)大分野津太陽光発電事業計画について	(1) 市道等の白線が消えていることが高齢者の交通事故の原因になるとの心配が寄せられた。特に交通量の多い場所で道路が狭く民家の出入口に接している場所などを点検する必要性について伺う。 (2) 本計画に関する情報開示、民意の把握について伺う。 ① 事業者は野津地域の何人の自治会長、区長へ計画を伝えてきたか。 ② 事業者が開催した説明会について地区ごとの開催日と参加数。 ③ 市は大分県から環境影響評価実施計画書についての意見照会を受けた平成29年8月以後、市民のどの範囲にどのような情報を提供してきたか。 ④ 市は、議会に対して情報を何一つ示してこなかったが、その理由は。 ⑤ 市は、住民から求められて対応した12月4日の「集い」や、市長あて住民提出の請願・申入れ書以外に、いつ頃、どのような方法で地元あるいは野津地域の意見（賛否、不安）を把握してきたか。 (2) 計画地が、重要な観光資源、市民の憩いの場である吉四六ランドに隣接する位置にあることについて、観光の視点、市民感情についてどのような見解をもっているか。 (3) 平成30年12月14日付で県知事に提出した「(仮称)大分野津太陽光発電事業に係る環境影響評価準備書に対する意見について」という文書で、「地元住民の不安を払しょくすることが事業実施の前提条件と考えており・・・全ての地元地区の同意を得たうえで自治会ごとに協定書を交わすこと」と記しているが、それは地元住民の不安が払しょくでき、同意を得なければ事業実施すべきでないとの考えであると理解してよいかを伺う。		
6	伊藤 淳	1. 防災について 2. 認知症施策について	(1) 災害発生時等に、通信手段の確保のために被災者が無料で使用できる特設公衆電話の設置状況と今後の対応について教えて下さい。 (2) 諏訪山体育館は災害発生時等の避難所となっていますが、今後予定されている改修工事の間の取り扱いについて教えて下さい。 (1) 国の認知症地域支援・ケア向上事業において、認知症地域支援推進員は認知症の人やその家族を支援する相談業務などを行うとされています。臼杵市においても認知症地域支援推進員が地域包括支援センターに配置されています。家族ではなく、区長・民生委員・福祉委員などの地域住民が、家族による介護が期待できない独居の認知症の方に見守り等の支援を行っている場合、認知症地域支援推進員は地域住民に対し、家族に対するものと同様の相談業務などの支援を行うべきと思いますが、市のお考えを教えてください。		
7	川辺 隆	1. 小中学校校舎の長寿命化について 2. 通学路の整備について 3. 市道整備について	(1) 現在までの取り組み状況と、今後のスケジュールについて、教えてください。 (2) 老朽化した施設の取壊し計画はありますか。 (1) 通学路周辺の倒壊危険家屋の調査と対策について、教えてください。 (2) 学校周辺の歩道整備状況を教えてください。 (1) 市道整備及び、中・長期的な整備計画はありますか。 (2) 整備計画に対しての進捗状況を教えてください。 (3) 新臼杵港から、臼杵IC・津久見ICへのアクセス道の計画はありますか。		

一般質問通告書（令和元年6月定例市議会）

質問順序	質問者	質問の要旨	具体的内容	答弁順序	答弁者
8	奥田 富美子	1. 外国にルーツを持つ子どもたちの「日本語指導」の体制について	(1) 日本語を母国語としない児童・生徒たちは現在何名いますか？また、その中で文部科学省の言う“日本語指導が必要な児童・生徒”は何名ですか。また、現在どのような支援が行われていますか？ (2) その対象の児童・生徒たちの日本語の能力を把握し、学習言語習得のために日本語指導員の加配について検討していますか？		
		2. 白杵市学校給食センターの調理業務の民間委託について	白杵市学校給食センターは2000年（平成12年）にO157対策、財政難、中学校給食の実現を目的にそれまでの単独校方式から現在の給食センターに替わりました。その検討の中で、安全な食材の確保やアレルギー対応など保護者のセンター化への不安の声がある中での移行でした。 (1) 当時「日本一の給食センター」を目指した取り組みがなされました。これまでどのような取り組みがなされてきましたか？ (2) 「基本直営でやっていく」と昨年6月の定例会で教育長が答弁されています。それから1年も経過しないうちの今年3月、市議会全員協議会で「調理業務の民間委託」の説明がなされました。この間の庁内での検討の経過と「民間委託」にたどり着いた理由についてお答えください。 (3) 移住されてきた子育て世代の中には「学校給食が良いから」と移住を決めた方がいます。今回の民間委託によってそのイメージが少なからず壊れます。民間委託に対する保護者の不安やイメージ低下についてはどのような対処をお考えですか？		
9	匹田 久美子	1. 「障がい者差別解消法」に関する条例制定について	2016年「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され同時に大分県では「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例」が制定されました。 (1) 白杵市における条例作りが待たれていますが現在どのような状況ですか。 (2) 災害時の要援護についてはどのように把握し、どのような対応や対策を進めますか。 (3) 相談や差別事案検討のためのシステムが必要と考えますがどのように構築しますか。 (4) 条例はどんな過程を経ていつごろできる予定で、その周知や活用はどのように考えていますか。		
		2. 「多様な性を尊重する地域社会」への具体的な取り組みについて	今年3月県議会で知事は「性的少数者を含むすべての多様な価値観や生き方が認められ幸福を追究できる社会を目指し当事者に寄り添った取り組みを加速させていく」と答弁しました。 (1) 県で始まった書類上の不要な性別欄を削除する取り組みを白杵市でも検討する予定はありませんか。 (2) 性的少数者に対する理解を深めるために職員、企業、市民等に向けてどんな取り組みを行ってきましたか。 (3) 学校現場での現状の把握や情報提供、理解促進のための取り組みはどのように進めていますか。		
10	大塚 州章	1. 公立幼稚園の今後のあり方について	(1) 白杵市立白杵幼稚園については、教育委員会で廃園の意思決定をされたと聞いています。その経緯と廃園に向けた取り組みをお伺いしたい。 (2) 白杵幼稚園が廃園されると、野津幼稚園が唯一の公立幼稚園となるが、野津幼稚園の今後のあり方について、教育委員会としてどのように考えているのかお伺いしたい。		
		2. 消防行政について(救急車の適正利用について)	(1) 過去5年間の出動件数についてお伺いしたい。 (2) 救急車の利用については、適正に行われているかお伺いしたい。 (3) 市民が出動要請をするか否か迷った場合の問い合わせ窓口はあるかお伺いしたい。		

一般質問通告書（令和元年6月定例会市議会）

質問 順序	質問者	質問の要旨	具 体 的 内 容	答 弁 順 序	答 弁 者
11	梅田 徳男	1. 国土強靱化地域計画の策定について 2. 発災時の避難意識と要配慮者対策の実態について	(1) 国土強靱化基本法では、「地方公共団体においては国土強靱化地域計画を策定し、これを実施する責務がある。」と規定されているが、白杵市の国土強靱化地域計画の策定に対する考えとスケジュール、可能であれば基本計画に関するお考え方をお伺いしたい。 (1) 昨年の9月定例会で、「平成30年7月豪雨の惨状を今後の各地区の防災訓練等に活かし、市民の生命・財産への被害を最小限に止めていただきたい」ことをお願いし、その対応策についてご答弁いただいているが、本格的な梅雨を迎える中、これまでの取組みと成果についてお伺いしたい。また、要配慮者が滞りなく避難ができる体制について、足下の実態をお伺いしたい。		